

地方自治最前線 首長インタビュー

有田川流域の再生はエコのまちづくりから 再生可能エネルギーのモデルタウン



有田川町長 中山正隆 さん

シリーズで紹介している地方自治最前線・首長インタビュー、今回は、平成の市町村合併で新しい町・有田川町長に選ばれて16年、中山正隆さんに合併と流域のまちづくりについてお聞きします。聞き手は、当研究所の鈴木裕範常務理事です。

平成の市町村合併 有田川流域をつなぐ

鈴木：中山町長は2006年の平成の市町村合併で、有田川町が誕生して以来町長を務めておられます。合併前は吉備町長を1期、地方自治の最前線に立っているわけですが、地方をめぐる状況からおたずねします。
町長：地方は、随分変わりました。私の町では、人口減少、第一次産業の後継者不足など、いっぱい問題が

流域のまちづくりを語る中山正隆町長

あります。けれど、地方自治体としても、今までみたいに国にばかり頼ってたらあかん、やっぱりこれからは自分たちの手でできかんと、まちづくりはできないと思っています。
いま、うちの町では、30から50代までの100名ぐらいの女性で女子会をつかって、積極的にまちづくりに参加してくれています。3年ほど前に、閉鎖になった保育所跡で若い子らが地ビールやパン工房やったり、いろんな活用して、自分らでやらなあとという意識が大分芽生えてるんと違うかな、うちの町は。

鈴木：行政が住民に自立を言い出すと、行政の責任逃れが気に懸かりますが、住民自ら地域をつくる動きは、すばらしいと思います。
有田川町は、平成の市町村合併で旧有田郡の地域性が異なる吉備、金屋、清水の3町が一緒になって誕生したわけで、その町をつなぐまちづくりが、大きな課題だったんじゃないですか。
町長：はい、文化から生活様式まで違います、まあかろうじて合併できたんかな。清水は林業、金屋地域はミカン産業、第一次産業が主ですね、吉備は当時、企業も何社か進出してきていました。この前の、国勢調査で吉備の人口は5年間で1500人ぐらい増えてるんです。

それでもね、3つの町は、有田川で非常につながりがある、ほいで違いはあるけれど、有田川の流域を何とかやろう、どこの地域が発展し、どこの地域が発展しないということが起こったらあかんということで、ずっと進んできました。

鈴木：大阪都構想で住民投票が話題を集めました、自治体の枠組み、仕組みが変わるとなると、いろんな意見があります。
町長：そうですね。金屋も住民投票をやりました。た

目次

地方自治最前線 首長インタビュー 有田川流域の再生はエコのまちづくりから 再生可能エネルギーのモデルタウン 有田川町長 中山 正隆さん………	1
第10回わかやま住民要求研究集会 記念講演 コロナ禍に立ち向かい、地域・社会のあり方を変える② 京都橋大学 岡田 知弘教授………	5
新年のご挨拶 和歌山県地域・自治体問題研究所 大泉 英次理事長………	8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2021年1・2月号



有田川女子会 UP Girls と情報誌『shiyola』

だ合併は、僕は今でも良かったとは思ってます。けれど、その検証というのは10年やそこらでなかなかできないと思いますね。
鈴木：有田郡の3町が一緒に新町が誕生したことは、良かったと。
町長：そういう思いはして、まず、はい。
鈴木：そう考える理由は何でしょう。
町長：端的に言うと、合併で有田川流域が1つにつながったのかな。この流域でまったく関係ないっていうことはない。うちは上水道をやっているんですけども、水は、非常にきれいな有田川の伏流水です。これは、

元を正せば清水の森林のおかげです、清水は過疎化になることが分かってたんですけれども、森林は大事にして、みんな守ってかなあかんって思う思いがありました。
鈴木：有田川が、3つの町をつないでいる。
町長：そうですね。有田川流域ってところは、文化、歴史もすごいです。
鈴木：しかし、人口減少、少子高齢化、過疎化に歯止めはかかっていません。地域経済を支える第一次産業は依然厳しいですね。
町長：先ほども言ったように、第一次産業で一番何が問題かって言ったら、高齢化と、後継者がいないっていうことです。今、大規模にやるかっていう方も何人かいらして、耕作放棄地ですね、全部引き受けてくれて、そこでつくってくれてるんです。目の前の山、今、真っ赤にミカン実ってますけれども、そういうことで維持できている農園はたくさんあるんです。それがなかつたらもう、3分の1ぐら

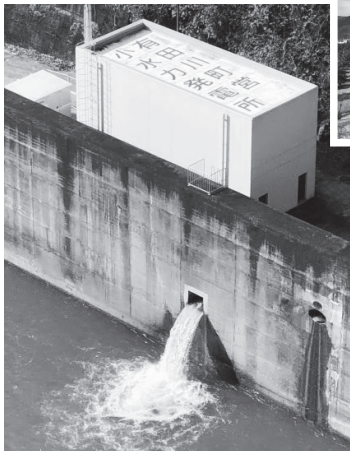
い山になつてるんかな。こへ来てミカンも若干、安定してきたんで、大規模でやるかっていう人も増えてきてます。ほいで、農業者を何とか増やさなあかんというところで、今、後継者のない農家の方々に協議会をつくってもらい、ほいで移住した人が農業やつていけるような方向で、取り組んでる最中です。
鈴木：重要産業の柑橘農業の担い手確保ですね。
町長：それがもう一番の問題ですね。昨年の初め、若い夫婦が1組、農業やりたいんやっていうことで移住して来てくれました、非常に元気にやってくれます。
鈴木：移住は、どういう状況ですか。
町長：古民家はようさんあるんでね。一生懸命取り組んでるんですけども、なかなか思うようにはいかないのが現状です。住んでおらんのかやけど。空き家は奥の清水が多いですね。
鈴木：清水の沼地区とか。
町長：はい。沼と、沼谷の2か所は和大的観光学部の

子が入って。おかげですね、村がものすごく活気が出てきましたね。特に沼地区で。昔から清水は、餅ほりの文化があるんですよ、春になったらもう、休みごと餅ほりやつてる、ほいで、高齢化でやまってたんです。そこに学生が入ってくれて、それも手伝いましょうっていうことで復活して、今、休耕田で蕎麦、米からいろいろ作ってくれます。年に1回、地域の方と観光学部の子らとが、その蕎麦で蕎麦打ち体験やつて懇親会をしてね。ほいで、そこへお手伝いに来てくれた観光学部の子がすでに役場で職員として頑張ってます。

森林資源の活用

鈴木：ご縁ができると、地域に入る若い世代が出てくるかも知れません。森林資源の活用はどうですか。
町長：今回国の方で、森林環境譲与税、今年度、うちは最終的には9000万円ぐらい年間交付されるんや

けど、前倒しで4000万円ぐらい入ってきてですね、それを活用して、間伐やつてるし、町の子どもたちを林業研修に入れたり、いろんなことでやっています。
鈴木：森には環境や教育など多くの機能があります。具体的な活用ですが。
町長：間もなく2021年6月からバイオマス発電所1基が稼働します、民間にやっていたんですけども、材木の調達もめどが立って、6月に、稼働っていう段取りで今進んでいます。場所は修理川の明恵峽温泉のちよつと上の、広い町有地で、そこへ据える。修理川の区民の方とも、いろいろなこと合意いただいて、稼働できるんです。
鈴木：木質チップの確保は大丈夫ですか。
町長：有田だけではできないです。年間約1万トンの間伐材が要るんで、日高の森林業者の方にも協力いただいて、日高郡と有田郡とで調達することになっています。今のところ1万トンの木材で発電をやるのかなと。



二川小水力発電所とごみ収集



再生可能エネルギーの先進モデル地へ

鈴木：森林の話にもどりますが、環境と経済の両立を

この余熱を利用させていた
だいて、明恵峡温泉風呂も
沸かそかなど。温泉って
うのは、もう燃料代が莫大
に要って、ほいで赤字がか
さんでるんですね。
鈴木：明恵峡温泉は、大変
人気のある温泉ですね。
町長：はい。おかげさん
今のところ収支とんとんぐ
らいで行けてます。今温泉
は全部赤字のところあるんや
けど、明恵峡についてはお
客がよう入って、ちよつと
コロナでね、休んだりとか
もあるんやけど、よく入っ
てます。

ただいけるのが、二川の水
力発電所です。二川のダム
から放水口までの間の水が
ダムでせき止めて悪くなっ
てきたっていうことで、毎
秒7トン維持放水してます、
これ何とか使えるんちゃう
かっていうことで、ここに
発電所つくろらよっていう
ことで小水力発電所建設し
てね、これ、日本の町営で

もうひとつ、高い評価い
たでいるのが、二川の水
力発電所です。二川のダム
から放水口までの間の水が
ダムでせき止めて悪くなっ
てきたっていうことで、毎
秒7トン維持放水してます、
これ何とか使えるんちゃう
かっていうことで、ここに
発電所つくろらよっていう
ことで小水力発電所建設し
てね、これ、日本の町営で

厳しいなかで、再生可能エ
ネルギーの風車の誘致をや
ったり、太陽光も始めてま
す。町の公共施設は、すべ
て太陽光発電据えています。
もうひとつ、高い評価い
たでいるのが、二川の水
力発電所です。二川のダム
から放水口までの間の水が
ダムでせき止めて悪くなっ
てきたっていうことで、毎
秒7トン維持放水してます、
これ何とか使えるんちゃう
かっていうことで、ここに
発電所つくろらよっていう
ことで小水力発電所建設し
てね、これ、日本の町営で

それを環境問題が非常に
積んでですね、ゴミの、生
ゴミのコンポスト、堆肥化
するコンポストを無料で貸
し出したり、もう今年で終
わるんですけども、町内
広いんですが、何千基って
ある街灯ね、全部町の費用
でLED化し、それも今年
で終わります。

これとゴミのお金、それ
から太陽光から上がるお金
これまた別会計で、基金で
積んでですね、ゴミの、生
ゴミのコンポスト、堆肥化
するコンポストを無料で貸
し出したり、もう今年で終
わるんですけども、町内
広いんですが、何千基って
ある街灯ね、全部町の費用
でLED化し、それも今年
で終わります。

初めてやって聞いています。
実は、これは1人の職員
が長らく温めてた計画でね、
知事さんと交渉して、ほい
で町も1000万円払って
つくって、もう4年か5年
になるね。5000万ぐら
い、コンスタントに上がっ
てます。

境についての賞は、たくさ
んもらいました。経済産業
省の次世代エネルギーパー
クに認定してくれたり、環
境省、和歌山県の和歌山環
境大賞っていうの、町では
初めて頂きました。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：有田川エコプロジェ
クトは、どういう再生可能
エネルギーがこの地域で可
能なのか追求してきたとい
うことでしょうか。
町長：はいはい、そうです。
鈴木：そういう中で、財政
収入にも結び付く、環境を
守りながらお金を稼ぐわけ
ですね。
町長：はい、そうです。環

境についての賞は、たくさ
んもらいました。経済産業
省の次世代エネルギーパー
クに認定してくれたり、環
境省、和歌山県の和歌山環
境大賞っていうの、町では
初めて頂きました。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

絵本と読み聞かせのまち 親子がつながる場

鈴木：ところで、絵本のま
ち有田川のまちづくりは、
どうして始まったのですか。
町長：まず、親子のつなが
りができる第一なんと違う
かなっていう発想から、初
めは図書館のサービスとし
て読み聞かせやそんな始
めたんですよ。それが、だ
んだんと進化してきて、ま
ちづくりにも利用できるん
ちゃうかっていうことで、
藤並の駅へ小さな美術館を
つくったり、特に、アレッ
クっていう20年ほど前に
できた交流館があるんですけ
ども、そこができてから一

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

鈴木：この国、地域の大き
な課題に自治体レベルで先
駆的に取り組んでいらっし
やるんですね。

気にこれが進んで、今は絵
本のまちづくりつちゆうこ
とでもうどこでも絵本を読
めるように、お店へも置い
てもらってるし、旧有田鉄
道の3つの、旧駅の跡にも
置けるし、年に1回、絵
本コンクールっていうのを
やってます。

それと同時に、「えほん
deわっしょい」っていう行
事やるんですけども、そ
れは地域とか、町外からも
いろんな出展をやっていた
だいて、えほんマルシェっ
ていうのをして、「えほん
deわっしょい」のときは4
千人ぐらい参加してくれる。
鈴木：すごいですね。
町長：絵本ファンというの
はものすごく多くてです
ね、絵本コンクールも今
では大変有名になって、こ
こで優秀作品、最優秀の作
品はもう必ず店頭へ並ぶっ
ていうぐらいランクが上が
ってきてます。ほいで絵本
作家も超一流の方が毎年、
審査にお見えいただけるん
です。

鈴木：すると、町の絵本人
口、読書人口は、かなりの

鈴木：すると、町の絵本人
口、読書人口は、かなりの

鈴木：すると、町の絵本人
口、読書人口は、かなりの



「えほん de わっしょい」には全国の絵本ファンが集合

ものではないですか。
町長：おかげさんです。ですね、アレックの利用してくれる方、人口割で言えばですね、多分、日本一だと思えます。1人当たりの蔵書の貸出し、図書館もね、使いやすいように、電子図書っていうのかな、タブレットとかインターネットで借りられるようにして、何千冊かな。
鈴木：子どもを育てる大事な場所ですね。

んでいかんと、なかなかうまいこと行かない感じがしています。子どもと地域とつながるっていうことが非常に大事なことで。ほいで子どもは、地域で育てやなあって考えています。
鈴木：一方、超高齢化の問題があります。
町長：そうですね、はい。これから何が大事になるんなあって、運転できない方が清水地域が増えてきます。やっぱり、公共交通の整備ですね。

地方創生の力は女性、 清水農業生き残りは 法人設立

鈴木：安倍内閣の時に地方創生総合戦略、ひと・まち・しごとがスタートし、最初の5年がすでに経ちました。将来のまちづくりを、どう進めていくのか、今日のインタビュアの最後に聞かせてください。
町長：うちも2020年から24年の計画、長期のやつもあるんですけど、また新たにこれつくってます。3

つの重点項目を掲げてですね、まず1つは、女性が住みたいまちづくり、女子力アッププロジェクトっていうのをやるし、それから、地域の魅力を生かした住民主体のまちづくり、女子会なんかもいろんな面で発信してくれてるし。このモデルは実は、米国のポートルンドです、規模は違いますけどね。とにかく、女子力をそれを大いに活用しているかな。同時に、地域の魅力、もちろん有名な有田みかん、それから日本一のぶどう山椒、こういうものを加工したり、いろんな方法で活かして、進めていけたらなと思ってます。

地方創生アッププロジェクトは、住民が主体でやるよっていうことと、それから、ずっとこの町に住んでいきたいよっていう方が多くいてもらえるようなまちづくりを進めていこうっていう、3つの基本で進めていきたい。
今度のコロナ禍のもとで、都会の方がですね、やっぱり田舎暮らししたいよって

いう方がたくさん今増えてると思います。それで何で来てくれんのよたらやっぱり、来てても生活する糧がないということ。清水地域の山椒、今もすごく人気で、供給が必要に追いつかんといううれしい状況ができて、京都の龍谷大学の学生が1つの部落へ入ってくれて、今、山椒の摘み取り、収穫体験やったり、山椒を生かした、いろんなメニューを研究してくれています。ほいでまあ、そんなみんなに助けていたでいて、とにかく若い子に来てもらえるような町になつたらいいと思います。そのためには、どんなしたら一番ええんよって言われるんやけど、農業法人つくっていただく以外にもう清水の農業は生き残らんとて、それはもういつとも町民の皆さん、特に清水地域の方々には話しています。山椒と米と野菜、野菜も昔から抑制トマト、抑制のスイカ、すごくいいのができた実績がある、そういうのを、農業法人つくっていた

だいて、若い子が来てもうて、しっかりと生活ができる体制をつくってもらおう外にもうないと思つています。来年度中には何とか立ち上げていただきたいと思つています。
鈴木：地域の重要産業、基幹産業として農業を大切にすまちづくりへの決意を感じました。
町長：有田川町というのはもちろん第一次産業が主な基幹産業でありますので、企業さんも、新たに来てる企業さん、今ないじゃないですか。そうしたなかでやっぱり第一次産業をしっかりとこれから盛り立てていくのが、有田川町にとって一番重要違うんかなと思つています。
鈴木：有田川町のこれからのまちづくりについての決意が、いまのお話にあつたと思います。これからは、地方自治の最前線でご活躍いただきたいと思つています。今日は長時間ありがとうございました。
町長：はい、ありがとうございました。